新飯能

発　行
日本共産党
飯能市委員会
９７３－１０９１

金子とし江
090-7265-1601
山田とし子
090-4389-4439
新井たくみ
090-4010-5650
滝沢おさむ
090-7000-4481

＜議員団の連絡先＞
973-2111(市役所456)
Mail　jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

双小と一中で放射能測定

一中　雨どい下の泥を除染

飯能市では、これまで、市内の小中学校、保育所など10ヶ所で放射線量の測定を行なってきましたが、引き続き小中学校、保育所などのより細かな測定を実施していくことになりました。

11月25日には、先行試験調査として双柳小学校と飯能市第一中学校の、側溝、雨どいのしたなどを測定しました。

測定位置は地表1cm上と50cm上で測定しました。

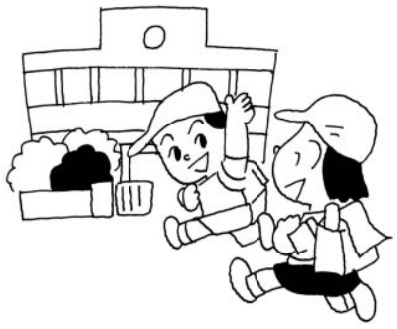
結果は、左表の通りですが、双柳小学校では地表1cm上では0・05μSv／h～0・20μSv／h、50cm上では0・04μSv／h～0・10μSv／hの範囲となりました。

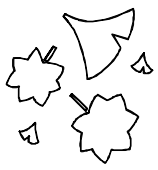
一中の雨どい下で高い値

飯能第一中学校では、1cm上で0・06μSv／h～1・18μSv／hの範囲、50cm上で0・05μSv／h～0・13μSv／hとなりました。なお第一中学校の体育館裏の雨どいの下では、1cm上では1μSv／hを超えたため泥の除去が行なわれ、数値は0・20μSv／hに下げることができました。

この地点を含め、子ども達の生活高さである地表50cm上で測定したところ、0・05μSv／h～0・13μSv／hとなり年間1mSv／h範囲であることが判明しました。

11月30日と12月2日にもそれぞれ10ヶ所づつ市内小中学校、保育所で行なわれ、引き続き測定も行なわれます。





測定結果

飯能第一中学校　11月25日測定		
調査地点	測定の高さ	平均値（μSv/h）
1　校庭中央	1m	0.051
1　校庭中央	50cm	0.054
1　校庭中央	1m	0.06
2　側溝	50cm	0.063
2　側溝	1cm	0.084
3	50cm	0.074
3	1cm	0.127
4	50cm	0.076
4	1cm	0.14
5	50cm	0.054
5	1cm	0.07
体育館裏雨とい	50cm	0.129
体育館裏雨とい	1cm	1.181
体育館裏雨とい	50cm	0.106
体育館裏雨とい	1cm	0.246

双柳小学校　11月25日測定		
調査地点	測定の高さ	平均値（μSv/h）
1	50cm	0.043
1	1cm	0.053
2	50cm	0.051
2	1cm	0.085
3	50cm	0.068
3	1cm	0.081
4	50cm	0.092
4	1cm	0.164
5	50cm	0.1
5	1cm	0.195

飯能消防団が特別点検を実施

11月26日に防災センターで23年度の特別点検が行われました。

服装規律、機械器具、訓練礼式、消防操法、一斉放水、諸帳簿の管理など、日頃飯能団が行っている活動全般を点検しました。

特別点検は1年間の集大成ともいえる最も重要な行事で、点検官と点検補助官に、各種訓練等を披露し、点検官の講評がありました。

23年度は、優良分団に第7分団、準優良分団に第9分団、機械器具優良分団に第5分団がそれぞれ選ばれました。

火災期を迎え、飯能団では、予防と警戒に全力で取り組んでいます。

意見書2本提出へ

日本共産党飯能市議団は今議会に、国・県に対して5本の意見書（案）を提案していましたが、30日の議会運営委員会で各会派で協議され、2本が提出されることになりました。

一つめは、東京電力・福島第一原発事故の被害補償を求める意見書（案）で、①農家や販売業者へ保障②放射能測定などにかかる自治体や民間への財政措置を内閣総理大臣などに求めるものです。

二つめは、合併処理浄化槽への県費補助の重点転換地区提案制度の10万円の加算を24年度以降も続けるよう埼玉県知事に求めるものです。最終日に提案され、可決する見通しとなりました。

波紋

高野和明さんの「ジェノサイド」を読む。山田風太郎賞を受賞した長編サスペンスで、書店に高く積んであったので思わず買ってしまいました。日曜版のインタビューで著者は「楽しく読んでいただけたら」と言っていましたがとんでもありません▼しつこく考えるという著者の言葉通りアメリカの民主主義やアフリカの現実の暗部がえぐりたされてゆく展開は本物です。「戦争で儲けたい政策決定者は、他国の脅威を誇張して国民に喧伝するだけでよい」「縄張り争いをしているサルが核ミサイルの発射ボタンを手にしている」などの警句が随所にちりばめられています▼終章、アフリカを脱出して日本にやってきた超人類のアキリに主人公の研人は「もう安心だよ。ここには戦争はないからね。この国の人たちは、もう戦争はしないと決めたんだ」といいます。しかしアキリはそのことばにかすかな疑念の表情をみせるのですが…。

バス問題で名栗、原市場地域でアンケート実施

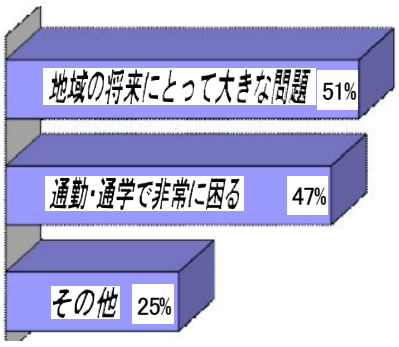
バスがなくなったら生きていけない…

国際興業バスが飯能営業所からの撤退表明を受けて、日本共産党原市場、名栗両支部は、住民アンケートに取り組みました。280通の回答（11月29日現在）が寄せられました。一部を紹介します。

補助金増額だけでなく新しい交通システムを

集計の結果、バスがなくなったら「通勤・通学で今すぐ困る」47％。「いまは困らないが地域の将来にとって重大な問題だ」という回答が51％でした。

国際興業バス撤退をどう思いますか？

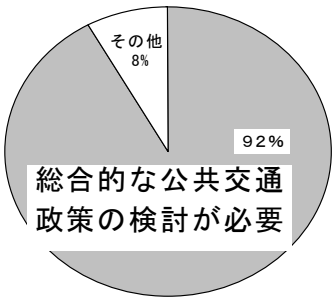


路線を維持するために、バス会社に「補助金を増やす」33％、「利用者に補助して、利用しやすい料金に」25％、「新しい交通システムを行政と交通関係者、住民でつくる必要がある」という意見が53％ありました。

交通政策の検討が必要92％

いま全国で460の交通協議会が設置され、4割の自治体が公共交通政策を実施・検討をすすめています。

アンケートにも、「住民の足の確保」は重要な課題なので、行政と交通機関（バス、タクシー会社など）と住民が一堂に会して、総合的な交通政策を検討すべきだという回答が92％にも及びました。



寄せられた声

●バスがなくなったら生きていけない。死活問題だ。

●バスがあるので3年前に引っ越してきた。一人暮らしで免許もないので、病院、買い物など困ります。

●バスがなくなったら引っ越しを考えるようだ。

●利用者が増える抜本的対策が必要だ。

●民間に任せるだけでなく、行政と住民で考えるときだ。

●安心して住み続けられるよう、新交通システムも視野に入れ、検討が必要ではないか。

補助金増額とスクールバス随契でバス路線を

国際興業バスが25年3月末で撤退したい旨を飯能市に伝えてきたことから、飯能市は、対応を協議し、路線維持のために、赤字補てんの補助金の増額と、これまで入札していたスクールバスの運行委託を国際興業に随意契約する意向を明らかにしました。

12月議会の答弁では、「新しい交通計画を作成するまで、撤退をしないようにお願いしている」とのことです。

文化欄

●湯豆腐やポン酢に添ふる庭の柚

●初霜やスリーナインの車は黒

志づえ

単位組合の課題をともに

地労連大会を開催

11月25日、富士見公民館にて第17回飯能日高地域労働組合連合会定期大会が開催され、代議員23人、役員7人、来賓2人の合計32人が参加しました。

この一年間の取り組みとして東日本大震災における独自の募金活動や仲間の要求に応えた埼玉県知事選での活動など地域に顔が見える労働組合としての役割を中心に報告されました。

新年度に向けては、個々の労働組合の課題に対し地域の労働組合として積極的に関わること、未加入労組との協同を広げること、学習会や交流会を通じて組織の強化を図ることが確認、採択されました。その後、各労働組合からこの一年間の運動が報告され、交流を深めました。

また、この大会をもって大野真さんが議長を退任し、新たに石井洋一さんが議長に選出されました。

役員は以下の通りです。

議長　石井洋一
副議長　柴崎康夫・飛山謹作
事務局長　野澤角栄
事務局次長　中村勝・本間想平

日本共産党飯能市後援会が総会と「青空ともみじ」のつどい

二〇一一年度、日本共産党飯能市後援会総会が開催されました。

原市場後援会は「世話人会の定例化と3号の後援会ニュースを発行。後援会は、共産党を応援する組織、後援会員加入申し込みで会員拡大とニュース会員を増やし党と一緒に住民要求実現にがんばる」と報告。各後援会から元気な活動報告がされ交流を深め、14名の新役員を選出しました。

27日は、青空ともみじのつどいが飯能河原で行われ51名が参加。各後援会が準備した芋煮やモツ煮、焼き鳥、美味しいお酒に舌つづみを打ち交流しました。

「つどい」では、宮城県東仙台へ震災ボランティアに参加し撮影した現地の被災写真や、ボランティア活動の写真も展示、西後援会の間野さんのフルート演奏に合わせ「たんぽぽ」の曲を全員で合唱するなど、深まりつつある秋の一日を楽しみました。